

2. 「環境立国・日本」の創造・発信

・「環境立国・日本」に向けた施策の展開方向②

<自然との共生を図る智慧と伝統を現代に活かした美しい国づくり>

●寺田寅彦(日本人の自然観 寺田寅彦随筆集 第五巻、1948)

日本のような多彩にして変幻きわまりなき自然をもつ国で八百万の神々が生まれ崇拝され続けて来たのは当然のこと。

生態系の環 ー自然と共生する社会の実現のためにー内閣総理大臣主宰「21世紀『環の国』づくり会議」報告(平成13年7月)

日本の伝統的自然観は、自然を単に利用する対象ではなく、共感すべきもの、共に生きるものと捉えるものであり、変転する自然の存在を認め、それに手を入れながら付き合っていくという自然に対する態度の基底となっています。

このような自然観により、かつてわが国では、里地・里山の管理のような模範的な生態系管理が行われていましたが、自然征服的・非循環型の社会経済や生活のあり方が支配的となった20世紀において、わが国の自然生態系は衰弱してきています。残された自然生態系をこれ以上衰弱させないことはもとより、これからは、わが国伝統の知恵と技に最新の科学を融合させ、自然共存・循環型の社会経済や生活へ転換することにより、自然生態系を蘇らせる21世紀にしていく必要があります。

里地里山

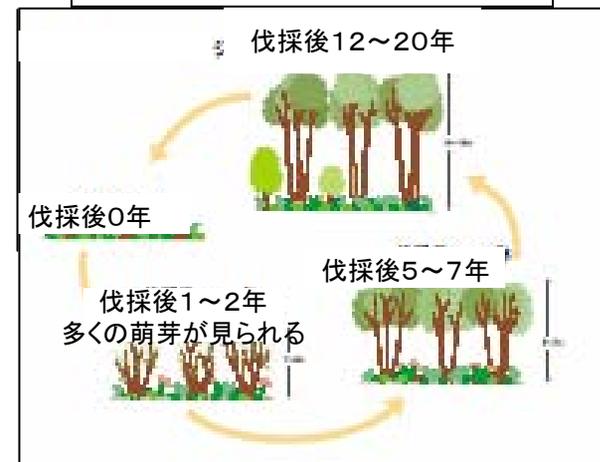
ー自然共生の智慧と伝統ー

自然を尊重し、共生することを常とする自然観

自然をうまく利用しながら培ってきた知恵と技術

地域共同体による共同作業やルール

雑木林の持続的利用のイメージ



2. 「環境立国・日本」の創造・発信

・「環境立国・日本」に向けた施策の展開方向③

21世紀環境立国戦略

＜車の両輪として進める環境保全と経済成長・地域活性化＞

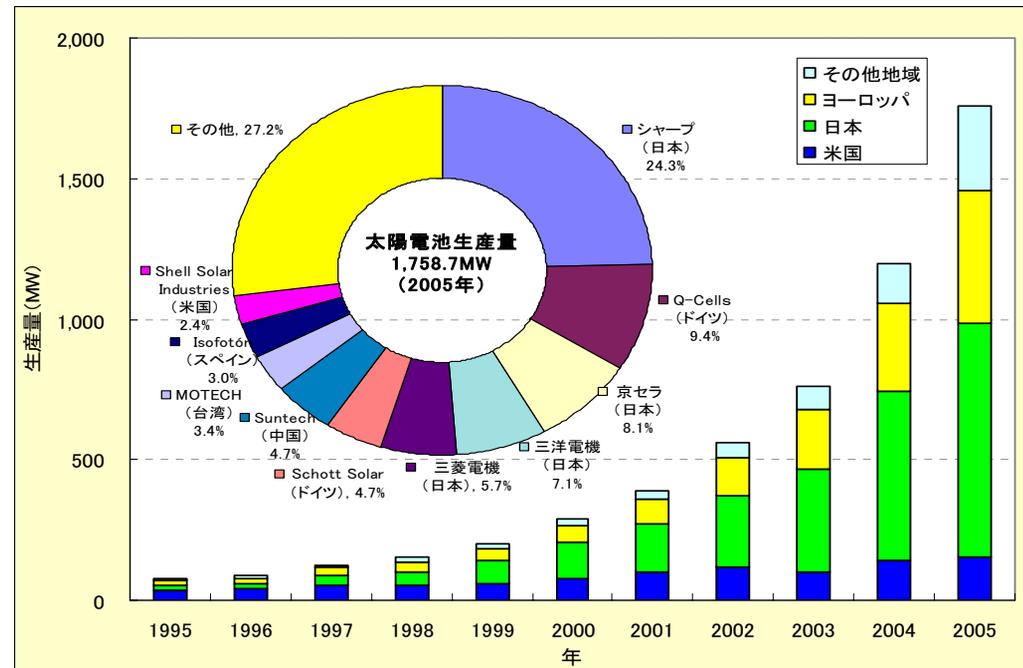
・例えば、太陽電池については、世界市場の5割近くを日本勢が占めており、ハイブリッド自動車についても、日本は世界最先端に位置。



太陽光発電



ハイブリッド自動車



太陽電池生産量推移とメーカー別シェア

出典: PV News 2006, Vol3,4より環境省作成

＜アジア、そして世界とともに発展する日本＞

- ・「グローバル・コモンズ(人類の共有の財産としての地球)」の考え方に立って、持続可能な社会に向けた我が国の取組がアジア、世界の持続可能な発展のエンジンとなるよう世界の国々と協力を進める
- ・特に、途上国の公害対策等と温暖化対策との相乗的・一体的な対策(コ・ベネフィット対策)を推進
- ・また、途上国における環境と貧困の悪循環の解消を目指し、我が国の環境・エネルギー技術や深刻な公害克服の経験・智慧を活かした国際協力を展開

3つの危機に対応した3つの分野別戦略

戦略1. 気候変動問題の克服に向けた国際的リーダーシップ

■美しい星50

(提案1)世界全体の温室効果ガス削減に向けた「長期戦略」の提唱

- ・世界全体の排出量を現状に比して2050年までに半減
- ・革新的技術の開発(CO2排出量ゼロの石炭火力発電、原子力発電、太陽光発電、燃料電池等)
- ・低炭素社会づくり(自然と共生した生活、公共交通の活用など効率的な移動システム、コンパクトなまちづくり等)

(提案2)中期戦略とその実現

- ・2013年以降の国際的枠組みに向けた3原則

原則① 主要排出国が全て参加し、京都議定書を超え、世界全体での排出削減につながる

原則② 各国の事情に配慮した柔軟かつ多様性のある枠組みとすること

原則③ 省エネ等の技術を活かし、環境保全と経済発展とを両立すること

- ・途上国支援のための新たな資金メカニズム、エネルギー分野の取組、その他の手法の検討

(提案3)京都議定書目標を確実に達成する国民運動を始めとする取組

- ・新たな対策を追加し、本年度中に京都議定書目標達成計画の見直し
- ・政府の率先実行、自治体や主要業務部門への計画公表の要請、行動の加速化の促進
- ・「国民運動」の展開(クールビズ定着、ゴミの減量、白熱電球の蛍光灯への転換、ESCO事業等)

- ・地球温暖化に関するモニタリング・予測及び適応策の検討
- ・森林吸収目標の達成に向けた対策の着実な推進

戦略2. 生物多様性の保全による自然の恵みの享受と継承

■世界に向けた自然共生社会づくり—SATOYAMAイニシアティブの提案、「美しい日本の自然キャンペーン」の展開

■生物多様性総合評価の実施と生態系総合監視システムの構築、「いきものにぎわいプロジェクト」の展開

■百年先の将来像を提示し自然と共生する国づくりを推進、生態系ネットワーク構想の推進、未来に引き継ぐ里地里山、農林水産業における生物多様性保全の総合戦略の策定

戦略3. 3Rを通じた持続可能な資源循環

■日本をアジアにおける3Rの推進拠点とし制度・技術・経験を発信、「東アジア循環型社会ビジョン」を策定し東アジア全体の資源循環実現

■製品ライフサイクル全体での資源生産性向上・環境負荷低減、地域レベルから物質の循環を促進、ごみ有料化など「もったいない」の気持ちを活かす社会経済システムの構築

■廃棄物発電の導入等の促進、廃棄物系バイオマスの有効活用

■各国における資源生産性の目標設定・レビューによるG8での3R推進

「環境立国・日本」を実現する上で重点を置くべき5つの横断的戦略

戦略4. 公害克服の経験と智慧を活かした国際貢献

- 「環境汚染の少ないクリーンアジア・イニシアティブ」の提唱、我が国の優れた環境技術と人材の活用、モニタリング情報などの環境情報ネットワークの確立
- 人間の安全保障の観点からODAの戦略的拡充による環境を重視した国際協力を推進
- 中国との水環境パートナーシップの展開、国際衛生年(2008)を契機とした水と衛生問題への貢献

戦略5. 環境・エネルギー技術の中核とした経済成長

- 「エコイノベーション」の推進、日本の技術の国際標準化、戦略的海外広報
- 環境関連投融資の促進、環境負荷の「見える化」等によるビジネス支援
- 国際潮流を踏まえた化学物質管理制度の見直し
- 世界最高水準にある省エネ技術等の普及と更なる技術開発
- 燃料用バイオエタノールの生産・利用拡大等再生可能エネルギー利用促進
- 安全の確保等を大前提とした原子力の利用

戦略6. 自然の恵みを活かした活力溢れる地域づくり

- 環境保全型農業の推進等による農林水産業の活性化、みんなが参加し「手入れ」でつなぐ元気な故郷づくり
- 世界最先端の環境モデル都市づくり、環境負荷の小さいコンパクトシティ等の推進、
- 豊饒の「里海」の創生、湖沼環境の再生、水とふれあえる暮らしづくり
- 「美しい森林づくり推進国民運動」の展開、国産材利用を通じた適切な森林整備

戦略7. 環境を感じ、考え、行動する人づくり

- いつでも、どこでも、誰でも「21世紀環境教育プラン」の展開
- 国際的に活躍する環境リーダーを育成するイニシアティブのアジアにおける展開
- 省エネ製品への買換え・レジ袋に代わるマイバッグ 利用等の国民運動の全国的な展開
- 環境政策立案・実施への幅広い関係者の参加と合意の推進、協働による地域環境力の強化

戦略8. 環境立国を支える仕組みづくり

- 国内排出量取引制度や環境税等の市場メカニズム活用の総合的な検討
- 金融における環境配慮の推進、環境報告書・環境会計制度の普及
- 商品情報の整備等によるグリーン購入の民間への拡大
- 環境配慮契約法施行に向けた体制整備
- 環境立国戦略の実施状況についての的確なフォローアップの実施

美しい星へのいざない「Invitation to “Cool Earth 50”」
～ 3つの提案、3つの原則 ～

提案①:長期戦略

- 「世界全体の排出量の半減を2050年までに実現する」の全世界共通目標化
- 「革新的技術開発」と「低炭素社会づくり」という長期ビジョンの提示

提案②:中期戦略

- 2013年以降の具体的枠組みを設計するための「3原則」
 - ・「主要排出国が全て参加し、京都議定書を超え、世界全体での排出削減につながること」
 - ・「各国の事情に配慮した柔軟かつ多様性のある枠組みとすること」
 - ・「省エネ等の技術を活かし、環境保全と経済発展とを両立すること」
- 新しい「資金メカニズム」を構築し、志の高い途上国に対し、日本から政策と協力を提案・発信する
- エネルギー効率向上に関する国際的取組の拡大及び原子力の安全で平和的な利用促進

提案③:京都議定書の目標達成に向けた国民運動の展開

- 自治体や主要業界に計画の公表を要請し、広く国民に対しても呼びかけを行い、排出削減に向けた行動の加速化を促す
- 国民運動の制度的な対応も含め今後更に強化を図る。具体的にはクールビズの定着、白熱球の蛍光ランプへの交換、省エネサービス事業などの推進等